

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいキッズ久留米		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和8年 12月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 15日		～ 令和7年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職連携による多角的な支援体制	理学療法士等専門職と現場職員が連携し、発達特性や身体面・感覚面を踏まえた支援を行っている。また、視覚スケジュールや絵カード等活用し、子どもが見通しをもって安心して活動できる環境づくりを行っている。	職員や専門性向上のため今後も継続的な研修やOJTを行い、職員間で支援の質に差が出ないよう、事業所全体の専門性向上を図る。
2	子どもの特性に応じた個別性のある支援	子どもの特性に応じた個別性のある支援や野外活動ができる活動設定を行っている。また小さな「できた」を実感できる関わりを大切に、自己肯定感や意欲につながる支援を意識している。	支援内容の「見える化」のさらなる強化をするため、個別支援計画や支援記録を分かりやすく整理し、保護者や関係機関に伝わりやすい形で共有していく。新人職員や管理者育成のため研修・引継ぎ体制を整え、支援の質を安定的に維持・向上させる。
3	保護者との情報共有・相談しやすい関係性	「日頃から様子が分かる」と回答が見られることから、連絡帳や口頭での報告を通して、家庭と情報を共有することを意識している。保護者面談や日々のフィードバックを通して、家庭での関わり方や見通しを共有し、保護者の不安軽減に努めている。保育所等訪問支援や情報共有を通して、集団生活の中でも一貫した支援が行えるように調整している。	保護者や関係機関向け情報発信の充実のため、感覚統合や発達特性に関する資料提供や勉強会を通して、家庭と事業所が同じ視点で子どもを支えられる体制を強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の見える化が十分でない	日々の支援や専門的支援を実施しているが、そのねらいや聖子府の過程を保護者や関係機関に分かりやすく伝える仕組みが十分ではない場面がある。	支援の記録やねらいの記録様式の見直しや写真・コメントを活用した支援の可視化、個別支援計画と日々の支援の関連性を明確にする取り組みを進めていく。また保護者・関係機関に伝わりやすい表現で専門用語を使いすぎない。
2	職員の支援理解の統一	感覚特性や発達段階への理解について、職員間で差が出る場合がある。	定期的な三研修や事例共有を行い、支援方針の共通理解を深める。支援のポイントを簡潔にまとめた資料を整備する。
3	業務の属人化	送迎・加算業務・記録等について、特定の職員に負担が集中しやすい。	業務手順を明文化し、複数職員で対応できる体制を整える。役割分担を見直し、業務の平準化を図る。

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 令和8年 3月 6日					利用児童数	回収数
		30名					10	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	5	1			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	24	1				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	2		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	1		1		
適切な 支援 の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24			1		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24	1				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24			1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	19	3	1	2		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24			1		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	25					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	25					
保護者 への 説明 等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	21		2	2		
	19	こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23			2		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24			1		
	21	定期的に運営やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24		1			
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25					
非常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	1				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	24	1				
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23			2		
満 足 度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	24	1				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	23	1		1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	24	1				

## 公表 事業所における自己評価結果

事業所名	みらいキッズ久留米				公表日	令和8年3月6日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	3	部屋を使用する児童を限定。 個室の利用、屋外活動を取り入れる			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	加配児童が多いと人手が欲しいと思うが、 活動内容を変更して対応	基本人員はいるが、子どもの状態のよって改善が必要。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	視覚的支援	死角がある		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1		活動に合わせるとやや狭さを感じる		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1		午睡時など是对応が難しい場合もある		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		研修			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8					
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8					
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8					

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼での情報共有	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	2			
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8				
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8				
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		必要なくなった写真・動画の消去	

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3		保護者の招待や地域行事に参加はしている
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8			